

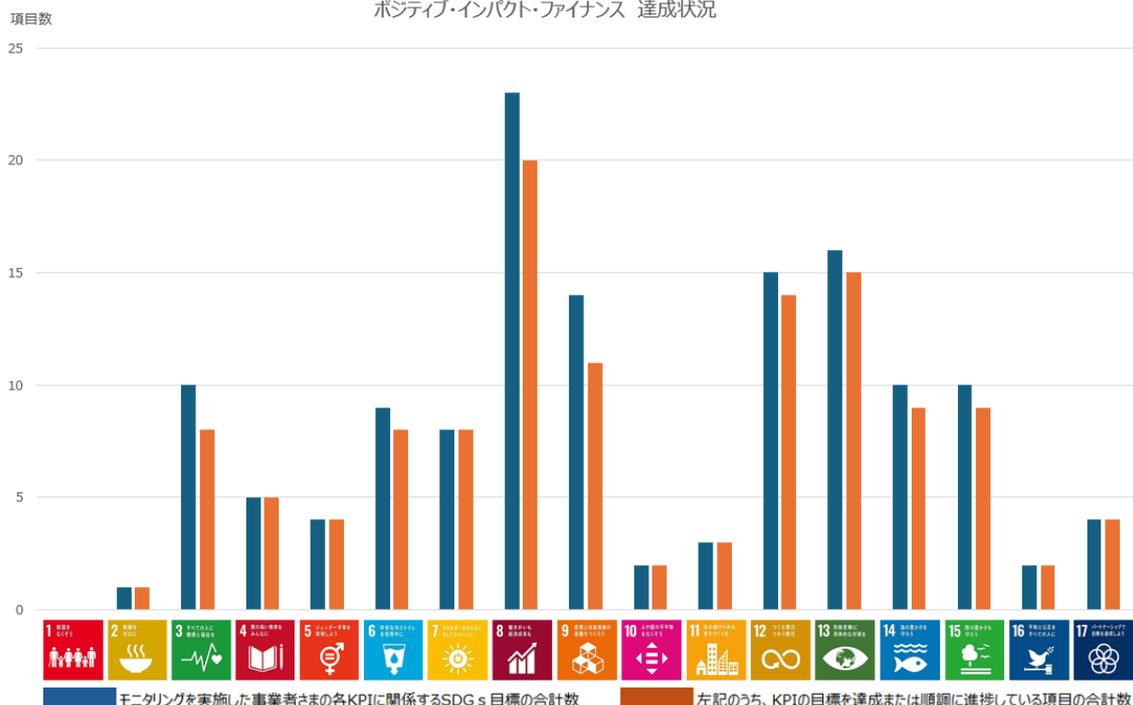
ポジティブ・インパクト・ファイナンスご利用事業者の
サステナビリティ経営への取組状況およびモニタリング結果について

滋賀銀行 営業統轄部 ESG ファイナンスチーム
しがぎん経済文化センター 産業・市場調査部

当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス（以下、「PIF」という）は、2021年9月に取扱開始以来、地場企業をはじめとして累計で7先の事業者にご利用いただいております。当行は各事業者との丁寧な対話を通じ、ロジックモデルによる分析やインパクトレーダーを活用し、事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブな影響およびネガティブな影響）の特定、分析および評価を実施しています。その中で設定された KPI は、社会課題の解決に向けた自社製品の開発や販売、温室効果ガス削減、人的資本経営や社会貢献活動への取り組みなど多岐にわたっています。また、取り組まれている KPI に関してはインパクトの状況を重視し、モニタリングなどを通じて対話を継続しております。

今回、モニタリングを実施した6先の事業者につきましては、以下のような達成状況となっております。特に、「8. 働きがいも経済成長も」「12. つくる責任 つかう責任」「13. 気候変動に具体的な対策を」などの目標に関連する KPI を設定しており、これらの取り組みが比較的順調に進捗していることを確認しました。PIF は、企業の事業活動による環境や社会へのポジティブな影響を最大化し、ネガティブな影響を最小化することで、持続可能な社会の実現に貢献することを目的としています。今後も、当行は対話と伴走支援を通じて、各事業者、そして社会全体の持続可能性の向上に努めてまいります。

ポジティブ・インパクト・ファイナンス 達成状況



お取引先名	大原薬品工業株式会社
<p>大原薬品工業株式会社（以下、「同社」という）は、2つのインパクトについて KPI を設定し、取り組みを進めている。</p> <p>「患者さまとその家族の QOL 向上」のテーマでは、「開発パイプラインの早期承認件数」と「途上国等におけるグローバルヘルス活動の取組状況」の2つを KPI に設定している。開発パイプラインでは、患者数が少なく治療法が確立していない難病に対応する希少疾病用医薬品「オーファンドラッグ」の研究開発を進めており、2023 年度には 2 成分の新薬が販売され、希少疾病への対応が進展している。グローバルヘルス活動では、現地企業と連携しながら発展途上国の医療サービスの向上を図るため、医療の発展に貢献できる現地のトップ企業を対象に出資している。2023 年度にはアフリカ諸国に透析サービスを展開する企業である AHN 社への出資を実施している。AHN 社は、ケニア、タンザニア、ルワンダの 3 か国で 45 ヶ所の透析クリニックを展開しており、今後もアフリカ各地への展開が見込まれることから、現地の医療インフラの発展に大きく貢献することが期待される。</p> <p>「環境負荷の低減」のテーマでは、「温室効果ガス排出量（原単位）の削減率」を KPI に設定している。2023 年度の削減率は前年度比 0.8%と、目標である 1.0%にはわずかに届かなかったものの、エネルギー使用量は前年度比 4.9%減少しており、着実な改善が見られる。照明器具の LED 化やコンプレッサーの台数制御運転、空調設備の管理手法の見直しといった省エネ対策の効果が表れている。</p>	

お取引先名	株式会社オーケーエム
<p>株式会社オーケーエム（以下、「同社」という）は、4つのインパクトについて KPI を設定し、取り組みを進めている。</p> <p>「脱炭素社会への貢献」のテーマでは、「LNG（液化天然ガス）燃料船へのバルブの導入隻数」を KPI に設定している。2023 年度は 17 隻（累計 23 隻）を受注し、2024 年度までの累計目標（20 隻）を上回る結果となった。国際海運業界では、脱炭素化の動きから重油からの燃料転換が進んでおり、移行期の代替燃料として LNG への関心が高まっている。</p> <p>「環境負荷低減」のテーマでは、「船舶排ガス用バルブの導入隻数」、「CO₂（二酸化炭素）排出量削減」の2つを KPI に設定している。「船舶排ガス用バルブ」は、世界トップシェアを維持しており、中国子会社での生産体制を整え、中国国内の企業への販売拡大を目指した施策を展開している。大気汚染物質を除去するキーデバイスであるバルブの品質を維持することで環境負荷の低減につなげている。「CO₂ 排出量削減」では、2020 年度に本社研究センターを建設するなど対象施設が増加する中、空調設備の更新をはじめとした省エネ対策を進め、電気使用量の抑制により CO₂ 排出量削減を進めている。</p> <p>「豊かな心を持つ社員の創造」のテーマでは、「男女間賃金格差の是正」、「女性管理職比率の向上」「男性育児休業取得の推進」、「階層別研修の受講者数・受講時間」の4つを KPI に設定しており、多様な人材が多様な働き方で安心して働けるように職場環境の改善に取り組んでいる。「男女間の賃金格差」は 81.8%と中途採用により女性の中堅社員が増加したことから、目標を上回っている。女性管理職比率は 4.2%と人手不足の問題があり早急な改善は難しいが、女性社員を積極的に採用、育成していく方針である。男性の育児休業の取得率は 75%であり、今後は管理職も含め全社員の取得を目指す。階層別研修では、管理職向けの研修を新たに追加するなど社内研修を拡充しており、受講者数・受講時間ともに大幅に増加している。</p> <p>「地域社会との共存共栄」のテーマでは、「地域貢献活動の充実と定着化、次世代教育の実施」を KPI に設定している。滋賀県内の企業向けセミナーや大学での講義、大学生対抗 IR プレゼンコンテストなどのイベントを通じて、地元企業や地域の学生へ自社の活動を伝えていくことで、次世代教育の推進と地域社会への貢献を図っている。</p>	

お取引先名	シン・エナジー株式会社
<p>シン・エナジー株式会社（以下、「同社」という）は、3つのインパクトについてKPIを設定し、取り組みを進めている。</p> <p>「エネルギー循環圏の実現」のテーマでは、「地域の事業者と共同で実施する再生可能エネルギー発電所の建設件数および地域新電力プロジェクトの組成件数」をKPIに設定している。脱炭素社会に向けた取り組みが進む中、地域のポテンシャルに合わせた電源開発や事業運営を行うことで、エネルギーの地産地消を推進するとともに、地域経済の活性化に寄与するエネルギー循環圏の実現を全国で展開している。2024年度は風力発電所、バイオマス発電所、地域新電力による太陽光発電所の合計3件のプロジェクトを実行している。バイオマス発電所では、燃料となる未利用材の全量を地元から調達している。また、地域新電力による太陽光発電所は、環境省が推進する脱炭素先行地域事業における第一号案件（兵庫県淡路市）であり、地域で創出されたエネルギーを活用した地産地消の促進を目的として、2024年度にPPAモデルの太陽光発電設備を2件導入している。</p> <p>「脱炭素社会への貢献」のテーマでは、再生可能エネルギーによる発電容量（自社およびグループ会社で所有する発電所の容量）をKPIに設定している。2024年度は、目標114MWに対して129.7MWと目標を達成している。このKPIへの取り組みは、日本の電源構成の約7割を占める化石燃料由来のエネルギーを代替することにつながり、脱炭素社会へ貢献しているといえる。</p> <p>「環境リテラシーの向上」のテーマでは、「自社が企画する環境啓発イベントへの参加者数」をKPIに設定している。2024年度は『持続可能なまち』絵画コンテストを開催しており、参加者は80人と目標の50人を大きく上回っている。同社は、このようなイベントが参加者にとって、持続可能な地域（まち）づくりや環境問題、自分たちが住むまちの未来の姿、生態系の維持などについて考えるきっかけとなることを企図している。</p>	

お取引先名	株式会社たねや
<p>株式会社たねや（以下、「同社」という）は、4つのインパクトについて KPI を設定し、取り組みを進めている。</p> <p>「自然と共生するお菓子づくり」のテーマでは、「生産者、製造工場との対話数」を KPI に設定している。およそ 1,000 社ある取引先から主原料を取り扱う取引先に対し実施している。サプライチェーンを通じた持続可能な農の促進を目指し、まずは、たねやの考えを取引先へ丁寧に伝えることを心掛け、取引先の労働環境や品質面、地球環境、地域社会への貢献に対する取り組みについて対話を行っている。2024 年 6 月からは管理職 3 名で対応し、100 社との対話完了を進めていく。たねやの考えを理解してもらうとともに、小豆皮の再利用やリサイクル可能な商材などについて取引先からも提案を受けるなど有意義な対話につながっている。</p> <p>「地域とつながる商い」のテーマでは、「ラ コリーナへの来場者数」を KPI に設定している。2023 年の来場者数は前年度比 88 万人増加の 409 万人となった。特に、2023 年 1 月に新店舗バームファクトリーがオープンし、カフェの席数も増えたことなどが寄与した。また、田んぼ、ヨシ刈り、伝統文化に関わる地域の魅力をより知ってもらう活動には、延べ 488 人が参加された。ラ コリーナを拠点とした地域課題への取り組みや自然資本の活用は進展しており、地域文化の伝承や自然の復元、生態系・自然との共生の実現などにつながっている。</p> <p>「多様な人材の活躍」のテーマでは、「女性管理職の比率」を KPI に設定している。本年度の実績は 55%と、目標である 50%を上回る進捗となっている。全従業員数 1,066 名に対し、女性従業員数は 806 名、女性管理職数は 56 名となっている。主管する「しあわせ推進室」の室長には元保育士を任命。社内には 10 名ほどの相談員が在籍し、働き方・育児・介護などの相談対応や関係部署との連携を図っている。従業員が抱える様々な問題や課題を解決することで、生き生きと働きやすい職場づくりを推進している。</p> <p>「環境への配慮」のテーマでは、2つの KPI を設定している。「GHG 排出量（Scope 1、Scope 2）」は、2023 年度の実績は 7,117t-CO₂となり前期比で削減が図られている。ラ コリーナの電力は再エネに切り替えし、今後も各部署の削減箇所を洗い出し、取り組みを進めていく。また、たねやでは Scope 3 の算定もほぼ完了しており、サプライチェーンに対しても脱炭素の取り組みを広げていく方針である。「食品廃棄物の再生利用率」では、2023 年度の実績は 97.6%と、目標である 95%を上回る推移となっている。各製造過程で発生する規格外ロスの特性（機械、生地、焼き）を把握したうえで、各工房でロスの削減に取り組んでいる。また、原材料管理においても、従来以上に工場間での調整を行い、原材料ロスの削減に取り組んでいる。</p>	

お取引先名	西川株式会社
<p>西川株式会社（以下、「同社」という）は、4つのインパクトについて KPI を設定し、取り組みを進めている。</p> <p>「快適な睡眠による人々の健康」のテーマでは、3つの KPI を設定している。「『眠りのプロフェッショナル人材』の育成人数」は、厚生労働省が認定する社内検定の合格者数は 2024 年 1 月時点で累計 58 名と概ね目標通りに進捗し、販売員全体のレベルアップや、キャリアアップにつながっている。「『ねむりの相談所』の拠点数」は、直営店およびチェーン店の両面でアプローチを行い、91 拠点まで増加した。導入店舗の成功事例などを検証し、拠点数の拡大につなげている。「『西川チェーン』の加盟店数」は、概ね目標通りに進捗している。</p> <p>「睡眠改善による経済効果」のテーマでは、3つの KPI を設定している。「『ちよつと寝ルーム』の導入件数」は、累計 8 件となり、順調に増加している。個別企業への導入だけでなく、オフィスビルへの導入により幅広い利用者の拡大が図れている。「『快眠セミナー』の実施回数」は、企業や小中高の学校を中心に、累計 96 回と目標を大きく上回る進捗となり、参加者の睡眠に対する理解を深め、悩みの解消につながっている。「『睡眠改善プログラム』の実施回数」は、目標を大きく上回る進捗となっており、実施先企業の従業員一人ひとりに合わせたプログラムを提供している。</p> <p>「環境配慮への取り組み」のテーマでは、2つの KPI を設定している。「不要となった羽毛ふとんの回収枚数」は、単年度 2,766 枚を回収し、目標を大きく上回る進捗となっている。「羽毛ふとんのリフォーム件数」は、単年度 9,956 件となり、概ね目標通りの進捗となっている。また、グリーンダウンプロジェクトによるリサイクルや、羽毛洗浄時の水使用量の削減などの環境配慮も進めている。</p> <p>「責任あるサプライヤーの構築」のテーマでは、「『取引行動規範順守宣言書』の提出率」を KPI に設定しており、環境問題や労働問題への関心の高まりを背景に取り入れは順調に進んでいる。</p>	

お取引先名	株式会社ファーマーズ
<p>株式会社ファーマーズ（以下、「同社」という）は、5つのインパクトについて KPI を設定し、取り組みを進めている。</p> <p>「革新的な医薬による人々の健康」のテーマでは、「パイプラインのライセンスアウト件数、新薬上市件数・販売数量」を KPI に設定している。田辺三菱製薬株式会社と共同開発を進めた自己免疫疾患を対象とした抗体医薬品候補については、ライセンス契約に基づく、所定のマイルストーンを達成している。今後、第 I 相臨床試験が開始される予定である。</p> <p>「ダイバーシティ&インクルージョン」のテーマでは、「外国人従業員比率」と「女性従業員比率」を KPI に設定している。外国人従業員比率は前年度比で増加。現在、9カ国の外国人を雇用しており、グローバル手当の支給や管理職への登用を進め、グローバルな人材の雇用拡大を目指している。女性従業員比率は 51.8%と目標を上回っている。育児特別休暇を年間 12 日付与（小学校 6 年生まで利用可）しており、今後も安心して長く働き続けられる職場環境整備を図る方針である。</p> <p>「未利用資源のアップサイクル」のテーマでは、「卵殻および卵殻膜の使用量」を KPI に設定している。2023 年度の使用量は 8.2 トンと前年度比で減少しているが、2024 年 2 月に国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と「バイオものづくり革命推進事業」契約を締結。卵殻膜のアップサイクルによる 3 つの領域（卵殻膜衣類、蓄電素子材料、農業資材）における事業化を推進しており、今後使用量の増加を見込んでいる。</p> <p>「持続可能な生産体制の構築」のテーマでは、「サプライヤー評価実施先の総合スコアの平均点」を KPI に設定している。2023 年度スコアは、前年度比で僅かに低下したものの、依然として高水準を維持している。サプライヤーとの積極的な対話を行い、品質・コスト・環境対応などに関する基準や改善点を共有することで、持続可能な生産体制の強化を図っている。</p> <p>「適切な顧客対応の徹底」のテーマでは、「定期顧客数に対するクレーム件数の割合」を KPI に設定している。2023 年度は前年度比で減少しており、クレームの原因分析と再発防止策を図り、継続的な改善活動によりクレームゼロを目指した体制整備を進めている。</p>	